様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３０１２０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５４６３５８２

研究課題名（和文）精神科看護における退院支援評価指標を用いた退院支援技術の確立と質的評価方法の構築

研究課題名（英文）Establishment of leaving supporting technology and building of the qualitative evaluation method for which the leaving support evaluation index was utilized in psychiatry nursing

研究代表者
石崎　智子（ISHIZAKI, TOMOKO）

日本赤十字北海道看護大学・看護学部・教授

研究者番号：５０１１３７８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、精神科看護師に求められる退院支援技術を確立し、質的評価に繋がる「精神科退院支援評価指標」の開発とその指標を活用した退院支援技術の質的評価方法の構築であった。精神科病棟に勤務し退院支援に3年以上かかわっている看護師を対象に、研究成果である退院支援技術項目を基に作成した無記名自記式質問紙法による全国調査を行い、その実施状況と「精神科退院支援評価指標」の評価を得ることを目的とした。一般社団法人日本精神科看護協会の協力により、精神科病院400施設に勤務する看護師1,300名に調査票を配付し、回収数612票（回収率47.1%）であった。データ分析の詳細は2017年に継続する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is building of qualitative evaluation method of the leaving supporting technology which established the leaving supporting technology (LST) asked from a psychiatry nurse, developed the "psychiatry leaving support evaluation index" which leads to qualitative evaluation and utilized the index. We investigated nationwide by the unsigned automatic recording questionnaire method which was made based on LST item which are study results targeted for the nurse who works at a psychiatry ward and concerns leaving support for more than 3 years. The purpose of an investigation is that "the psychiatry leaving support evaluation index" is valued the implementation situation of LST. We got cooperation of Japanese Psychiatry Nursing Association in case of object's election. A questionnaire was distributed to 1300 nurses who work at 400 establishments of psychiatry hospital, and the rate of collection was 612 votes (47.1 % of rate of collection).

研究分野：精神看護学

キーワード：精神科看護　精神科看護師　退院支援技術　精神科退院支援評価　精神科医療　医療と地域の連携

１．研究開始当初の背景

我が国の精神保健医療福祉は、長らく入院治療を中心に進められてきた。そのため、法改正を経てもなお、地域医療への転換は十分に進んではこなかった。このような経緯を踏まえ、厚生労働省は、2002 年報告書において、「入院医療主体から、地域保健・医療・福祉を中心としたあり方」を掲げ、受入れ条件が整えば退院可能な約 7 万 2000 人の患者（社会的入院患者）の退院を目指す方針（厚生労働省[1], 2002）を明確に示した。しかし、2009 年の報告によると、救急医療の整備や急性期治療の重点化および訪問看護等の地域医療の充実も徐々に進められており、入院の短期化が進んでいる一方で、入院期間 1 年以上の長期入院患者では、その動態に大きな変化はみられていない（厚生労働省[2], 2009）。社会的入院の背景には、地域社会での退院後の受け皿不足、家族の受け入れの限界および精神科医療・福祉の継続的ケアシステムの不備などの問題が指摘されている。精神科医療においては、高齢者が病院から地域へ退院する際のような体制が整っているとは言い難い。まさに、地域へ送り出す側としても暗中模索の現状であり、それ故、これまで以上に精神科看護師の退院支援に関する役割の遂行が求められる。

看護領域においては、長期入院患者の地域生活への移行を目指す流れのなか、各機関が模索しながらも様々な取り組みに乗り出している。しかし、現時点では、個々の研究における知見が整理されておらず、また、退院支援に関する看護が確立されているとは言い難いのが現状である。加えて、退院支援を推し進めていく上での精神科看護師に必要な退院支援技術の質的評価指標は明らかにされていない。我々の研究成果においても、臨床現場の看護師は、退院支援技術に対する評価指標を求めていた。

精神科看護領域における退院支援に関する研究は、年々数を増し、現在では数多くの研究報告が散見される。その内容は、自己効力感に着目したアプローチ（児島他[3], 2011）、精神科長期入院患者への退院を意識する条件、援助、連携に関する要因の検討（小山[4], 2011）、長期入院の精神障害者の退院支援の魅力（木村[5], 2011）、慢性精神障害者の退院を支援するグループ・アプローチに関する研究（第 2 報）（近藤[6], 2009）などがある。しかしながら、事例研究や質的研究のみに留まり、対象者数が確保されていない。また、それに伴い、一般化までは推し進められておらず、精神科看護師の看護技術としては、まだ確立されていないのが現状である。

＊引用文献

1) 厚生労働省・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課(2002). 社会保障審議会部会精神障害分会報告書, 今後の精神保健医療福祉政策についての概要. http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/bukyoku/syougai/dl/j4a.pdf>. ［2012.9.15]
2) 厚生労働省・援護局障害保健福祉部（2009）. 精神保健医療福祉の更なる改革に向けて, 今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会報告書について. 〈 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/s0924-2.html〉. [2012.9.15].
3) 児島祐美子, 中山里都美, 福田久美江, 村山佐恵子, 八木谷真智子, 山崎みどり（2011）. 自己効力感に着目したアプローチ　精神科長期入院患者への退院支援を試みて. 鳥取臨床科学研究会誌, 3(1), 7-12.
4) 小山明美（2011）. 精神科長期入院患者への退院を意識する条件、援助、連携に関する要因の検討　看護師への質問紙調査を通して. 日本看護学会論文集, 精神看護, 41, 200-203.
5) 木村美智子（2011）. 長期入院の精神障害者の退院支援の魅力. J Nurse Investing, 19（2）, 39-43.
6) 近藤浩子（2009）. 慢性精神障害者の退院を支援するグループ・アプローチに関する研究(第 2 報). 千葉看護学会会誌, 15(2), 27-35.

２．研究の目的

本課題においては、これまでの研究成果を基に、精神科看護師に求められる退院支援技術を明らかにし、全国調査により精神科看護における「退院支援評価指標」の妥当性と有用性について分析する。それを基にして更なる「退院支援評価指標」を醸成する。醸成された「退院支援評価指標」を活用した退院支援技術の質的評価方法を構築する。

３．研究の方法

(1)精神科看護師における「退院支援評価指標」に関する研究

①研究対象と調査方法

これまでの研究成果である「退院支援技術項目」に対して、精神科訪問看護や地域連携室において退院支援にかかわっている看護師に、直接退院後に地域において生活している精神障がい者を支援している看護師の視点から「退院支援技術項目」を評価して頂き、その分析結果から「退院支援評価指標」を明確にすることを目的に、フォーカスグループインタビュー(以下、FGI)を実施した。

青森県内の精神科病院において、精神科訪問看護や地域連携室に勤務している看護師、または実際に訪問看護を行い、地域において生活している精神障がい者を支援している看護師 6 名を研究参加者として、2013 年 10 月に 90 分の FGI を実施した。フォーカスは、退院後に地域において生活している精神障がい者を支援していて戸惑うこと、精神科病院において精神科看護師が行う退院支援技術について望むこと、「退院支援技術項目」

についての意見とし、これらについて自由に語ってもらった。
②データ分析は、FGI の逐語録から、退院支援周辺の課題に関連していると考えられるものを操作的定義により、文脈を損なわないよう抽出し、1 次コードとした。そこから抽象度を高めた 2 次コードをサブカテゴリとした。さらにサブカテゴリの類似性を勘案してカテゴリとした。研究データの信憑性を確保するために、常に複数の研究メンバーで検討を繰り返し、「退院支援技術項目」と「退院支援評価指標」を検討した。また、検討結果に対しては、精神科看護の専門家にスーパーバイズを受けた。

(2)地域における精神障がい者受け入れ状況に関する研究

本課題である精神科病院における退院支援の状況について、特に医療過疎が進む北海道オホーツク圏域の状況を把握するために、道立向陽ヶ丘病院において実際に退院支援に携わっている看護専門職から情報収集を行い、科研メンバーとの意見交換を行った。
参加者は、現在道立網走向陽ヶ丘病院に勤務しており、オホーツク地域における精神障がい者の退院支援に携わっている看護師 3 名である。病院だけではなく、オホーツク地域で生活する精神障がい者の状況にも詳しい精神科看護の専門家である。精神科医療・看護の現場の立場から、本研究課題に対する意見交換・情報交換を行い、今後の研究推進に活かすことを目的とした。

(3)精神科病院における看護師の退院支援に関する看護行為に関する研究

①調査目的
全国の精神科病院の看護師を対象とした質問紙調査を実施し、「新・精神科退院支援評価指標」を醸成することであった。
②研究対象
全国の精神科病院(400 施設)に勤務する看護師 1,300 名である。
一般社団法人日本精神科看護協会の協力の基、精神科病院 400 施設を選出していただき、それぞれの病院に調査票を郵送し、病院長及び看護部門責任者へ調査協力を依頼した。
③調査方法
2017 年 3 月に、自作の無記名自記式質問紙調査票を用いて、郵送法により実態調査および「精神科退院支援評価指標」に対する評価を求めた。
調査内容は、①患者の退院推進のために、日常業務で行っている援助に関する「退院支援技術項目」47 項目（順序尺度 4 件法）②日常行っている看護内容について 54 項目（順序尺度 4 件法）③看護師として退院支援に必要な能力（自由記述）④退院支援に関して自分に不足している能力（自由記述）⑤自作の「退院支援技術項目」についての評価（自由記述）⑥属性について回答を求めた。
④分析方法
各項目の看護行為の実践状況については、基本統計量を算出中である。自由記述については対象者の意図を損なわないよう抽出し、1 次コードとした。そこから抽象度を高めた 2 次コードをサブカテゴリとし、さらにサブカテゴリの類似性を勘案してカテゴリとした。

４．研究成果
(1)精神科看護師における「退院支援評価指標」に関する研究

これまでの研究成果では、「退院支援技術項目」としては、5 分類 46 項目を構築したが、本課題においては、「セルフケア形成への援助」11 項目、「患者の社会生活に向けた援助」19 項目、「社会資源の把握と家族・地域連携に関する支援」17 項目の 3 分類 47 項目に精錬させた。ただし、支援技術の内容を適切に簡潔に表現できているか、具体的であるかなどの課題が残された。
今後は、今回構築した「退院支援技術項目」に対する妥当性と有用性を実証するため、全国規模の調査の実施に向けて、継続した取り組みが必要である。また、「退院支援技術項目」を基にした「退院支援評価指標」を構築し、そのツールを用いた退院支援技術の確立と質的評価方法の構築を目指した研究を継続していく予定である。

(2)地域における精神障がい者受け入れ状況に関する研究

2014 年 3 月、網走市にある「道立向陽ヶ丘病院」において、精神科看護における退院支援状況と地域との連携について、道立向陽ヶ丘病院に勤務する看護師 3 名を参加者として、精神科医療・看護の現場の立場から、精神科病院における退院支援の現状についての情報交換と意見交換を行ってきた。
総看護師長から、退院支援についての看護部門の方針を伺った。その後、参加者 2 名と研究メンバー2 名の 4 名で、情報収集と意見交換を行った。その結果、参加者は、北網圏域地域生活移行支援協議会のメンバーとして、日常の看護支援を通して退院支援に直接携わったり、隔月に開催される協議会に出席したりして、地域の福祉施設との連携を構築し、退院支援に積極的に取り組んでいる状況を把握した。一方では、精神障がい者とその家族の高齢化、精神障がい者を受けいれる地域の施設が少ない現状もあるということを把握した。

(3)精神科病院における看護師の退院支援に関する看護行為に関する研究

調査票 1,300 票を配付し、回収数 612 票（回収率 47.1%）であり、全て有効回答であった。
データ分析は、全ての項目に関する基本統計量を算出中であり、自由記述のカテゴライズを含めた詳細のデータ分析は 2017 年度の研究において継続していく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕、〔学会発表〕、〔図書〕および〔産業財産権〕等への公表はできなかったが、専門学会等への発表を準備中である。

６．研究組織

(1)研究代表者

石崎　智子（ISHIZAKI,Tomoko）
日本赤十字北海道看護大学・看護学部・教授
研究者番号：50113783

(2)研究分担者

則包　和也（NORIKANE,Kazuya）
弘前大学・大学院保健学研究科・講師
研究者番号：00342345

西村　美八（NISHIMURA,Miya）
京都橘大学・看護学部・専任講師
研究者番号：00436015

古川　照美（KOGAWA,Terumi）
青森県立保健大学・健康科学部・教授
研究者番号：60333720